

あとは君たち次第

来客対応は校長の役目の一つですが、以前と比べ最近多くなってきたのは、高等学校の校長の来校です。用件はさまざまです。ある校長は、新しい学校だよりができあがると、毎回足を運んで届けてくださいます。そのたびに、私は恐縮してしまふのですが、それをきっかけに情報交換をし、互いの学校の状況をつかうのに役立っています。高校の校長はフットワークの軽い方が多いようです。

本日も某高等学校の校長が来校されました。この高校は瑞浪市から距離があります。この辺りから進学する生徒が少ない学校です。しかし、近々行われるその高校の見学会に参加する生徒のために、校長が直々に資料を届けてくださいました。入学した生徒だけではなく、興味をもってくれた生徒も大切にする高校の姿勢が校長の行動一つでわかります。

全国的に生徒の数が減り、高校側は当然生徒集めに必死です。しかし、最近では、集まってくれた生徒に対しても手厚く親切に指導してくれます。これはどこの高校でも同じです。私の卒業した高校は、当時一学年八クラスありましたが。現在は五クラスです。私たちの頃は、入ったら「自分の努力ではい上がってこい」的などころがありましたね。今はそんなイメージではなく、生徒にいろいろなことに挑戦するチャンスを与え、丁寧に可能性を引き出してくれているように感じます。人数だけではなく、雰囲気もずいぶん変わりました。

今後、高校見学会やオープンキャンパスに参加する生徒が多くなります。その人たちに私がぜひ伝えたいのは、この高校に進むと自己実現ができそうだと思う学校をしっかりとみつけてきてほしいということです。

通学距離も気になるでしょう。保護者にも大きな負担となるでしょうからね。そこに進学するのは北中から自分一人かもしれません。心細くなるかもしれないね。でも、それらよりも大切なことは、自己実現するためにふさわしい環境や、それを支えてくれる雰囲気があるかどうかです。高校に足を運んだら、それを見極めてきてくださいね。

さあ、義務教育終了を控えた三年生のみなさんにとってのいちばんの試練は、これまで共に過ごしてきた仲間と別れて、自分の進路を歩み始めることです。あと数ヶ月で、完全な巣立ちですね。その準備がこれから加速します。高校側は万全の準備で臨んでいますよ。あとは君たち次第。がんばれよ。

(九月十八日 記)



来客玄関の案内板